

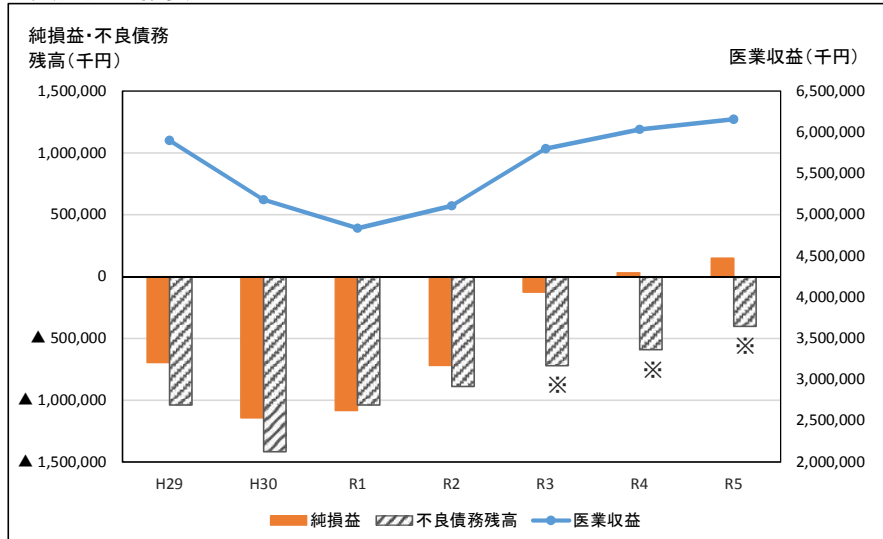
○経営指標に関する数値目標（主なもの）

	令和元年度 【基準年度】	令和2年度 【実績】	令和5年度 【目標】
医業収支比率	77.6%	83.2%	96.8%
1日当たり入院患者数	173人	181人	210人
1日当たり外来患者数	560人	504人	600人
医師数	34人	33人	42人
不良債務残高	1,038,322千円	886,951千円	739,405千円
他会計長期借入金残高	2,275,563千円	2,275,563千円	2,150,500千円
企業債残高	5,001,619千円	4,988,159千円	3,934,840千円
累積欠損金	11,191,449千円	11,908,344千円	12,289,802千円

※用語解説

医療収支比率	医療活動による収益性を示す指標。100%以上で利益を上げていることになる。
不良債務残高	流動負債と流動資産（企業債等を除く。）の差であり、資金不足が生じていることを示す。
他会計長期借入金残高	一般会計からの長期借入金（令和2年度から令和4年度まで返済猶予）
企業債	病院建築や医療機器等購入のための借入金と特別減収対策企業債の残高
累積欠損金	各年度の損失額（現金支出を伴わない費用である減価償却費等を含む。）を積み上げた金額

○収支計画の概要



※R2年度実績を踏まえた見通しのため、経営再建計画の数値と異なります。

江別市立病院経営再建計画

【概要版】

令和3年7月 江別市

計画策定の趣旨

「危機的な経営状況」

○総合内科医の退職が続き、診療機能が大幅に低下（平成29年度～）

「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」答申

（第1次答申：令和2年2月、第2次答申：令和2年6月）

「江別市立病院の経営再建に向けたロードマップ」策定（令和2年3月）

「江別市立病院再建計画」

- 「北海道地域医療構想」との整合性を図り策定
- 「江別市立病院新公立病院改革プラン」の後継計画として位置付け

計画の骨子

経営再建の基本理念

《自律》、《連携》、《柔軟》、《迅速》

計画期間

○令和3年度から令和5年度まで（3年間）

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

◆計画期間中における医療機能、5疾病及び5事業の方向性

- 機能強化～在宅医療、がん
- 機能維持～手術、入院、精神疾患、小児医療、周産期医療
- 機能分化～外来、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、救急医療、災害(感染症)医療

経営の効率化

- 効率的な診療体制の確立
- 経営体制の構築

経営形態の見直し

○令和3年度中に準備を進め、令和4年度当初に地方公営企業法の全部適用へ移行

点検・評価・公表等の体制

- 外部委員によって構成される「江別市立病院経営評価委員会」を設置
- 点検、評価結果については、ホームページで公表するほか、分かりやすく周知

江別市立病院経営再建計画

～ロードマップ2023～

令和元年度
(2019)

令和2年度
(2020)

令和3年度
(2021)

令和4年度
(2022)

令和5年度
(2023)

江別市立病院



「経営再建に向けたロードマップ」を策定し、経営再建に向けた取り組みを開始

危機的な経営状況

新専門医制度の導入などへの対応が遅れ、総合内科医の退職が続き、診療体制を縮小

- 公立病院として担う医療の重点化（在宅医療、がん）
- 札幌医療圏の病院と連携し、回復期の患者を受入れ
- 訪問看護ステーションの体制強化
- 病床規模及び職員定数の適正化
- 医師招聘体制の強化（専任部門の設置）
- 「医師の働き方改革」への対応
- 看護体制の抜本的見直し（2交代制の全面実施等）
- DPC運用の最適化（コーディング精度の向上等）
- 委託料の削減及び材料費の増加抑制
- 財務基盤の強化（不良債務の縮減等）
- 広報活動の充実

- ガバナンスの強化（プロパー化の推進等）
- ボトムアップの組織文化の醸成
- 地域医療連携体制の強化（紹介患者、手術件数の増加）
- 「開放型病床」の導入
- 二次救急の輪番制構築
- 「北海道がん診療連携指定病院」の指定
- 内科診療体制の構築（R5年度：13名体制）

地方公営企業法全部適用への移行（令和4年4月～）

目指す病院像

地域の医療をつなぎ、
地域に密着した医療を提供し、
地域の発展に貢献する病院

収支均衡の実現

経営評価委員会



- 経営再建の進捗状況の点検・評価
- 経営再建に向けた指導・助言